



福岡県協ニュース

新風

第15号

JR連合福岡県協議会
 発行責任者 中原博徳
 編集責任者 住吉一家
 福岡市博多区博多駅前
 3-13-4
 リアンプレミアム博多駅前ビル5F
 ☎092-472-7950

第1回政策フォーラム

JR連合福岡県協議会は9月19日、福岡市内で第1回政策フォーラムを開催し、県協が推薦した福岡県議会議員や福岡県交運労協とともにJR産業が抱える課題に対して意見交換を行った。

同フォーラムはJR九州労組が主催する交通重点政策意見交換会と合同開催とし、同労組が参加を呼びかけたJR連合国会議員懇談会及び21世紀の鉄道を考える議員フォーラムに所属する国会議員の皆さんとも課題を共有した。



政策フォーラムの様子

主催者を代表してあいさつした中原博徳議長（JR九州労組中央執行委員長）は、コロナ禍の中、集まることが困難な中、出席者に謝意を示し、福岡県協として推薦した各議員との交流が軽薄であったことから、本フォーラムを機に

一層の連携強化を図りたいと開催の趣旨を説明した。また、新型コロナウイルスに限らず、2020年も豪雨災害により鉄道施設が甚大な被害を受けており、引き続きの復旧・復興支援に協力を求めた。

その後、JR連合から駆けつけていただいた尾形泰二郎事務局長とJR連合福岡県協の木村智隆副議長から、

JR連合が抱える政策課題や九州・福岡における課題などを提起した。

尾形事務局長は、新型コロナウイルスの影響によって、僅か3ヶ月で1兆円の売り上げが蒸発してまった事などを具体的に説明し、諸外国の鉄道と日本の鉄道との特徴の違いなどにも触れながら公的支援の必要性を訴えた。また、交通崩壊を招かないためにも持続可能な交通体系の構築に理解を求めた。

木村副議長は、令和2年7月豪雨により被災した久大本線、肥薩線の実態を報告するとともに、BRTによる復旧が決定した日田彦山線の状態や3月から全便運休が継続しているJR九州高速船の状況を説明した。

意見交換では、JR連合国会議員懇談会及び21世紀の鉄道を考える議員フォーラムに所属する国会議員、県協が推薦した福岡県議会議員から、国において新型コロナウイルス対策が十分に進んで



意見を述べる大串代議士（JR連合国会議員懇談会・幹事）

いない事や自然災害からの復旧に向けた意気込みを報告いただいたほか、現在政府が進めているGOTOキャンペーンが本当に役に立っているのかなどの質問も出された。これらの意見に対して、尾形事務局長及び木村副議長から、この間の各立場からの協力を謝意を示すとともに、さらなる鉄道の利用促進やコロナ禍からの脱却に向けた取り組みを要請した。

最後に米村弘隆副議長（JR西労組福岡地本執行委員長）から、出席した関係者に対して引き続きの協力をお願いして閉会した。

将来に夢と希望を持てる
 鉄道・公共交通を創出しよう